

加西病院完成（昭和49年）



9月10日に竣工式が行われた。完成した建物は、地上6階・地下1階、延べ面積1万286平方メートルでベッド数は184床、設備もアイソトープ設備、リハビリテーション施設、X線透視用テレビ装置など新鋭機器をそろえた。開設当初の診療科は内科、外科、整形外科であり、小児科、産婦人科などは医師の確保ができ次第、開設する予定とされた。

9月議会では、病院の病室使用料の修正、加西病院の医師確保と診療科目増設に関する要望決議など22件を可決した。

50年後の今

市立加西病院は、北播磨医療圏西部唯一の公立病院として、市民にとって必要な医療と保健医療機能を提供しています。

そして、社会保障のセイフティネットの中核として、民間病院と役割分担をはかり、急性期並びに回復期の医療を担って地域住民の健康な生活を支えています。

しかし近年、国の医療制度は、医療費抑制、病床機能の再編のほか新専門医制度など大きく変化し、医師・看護師不足など医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような中、市立加西病院新改革プラン（計画期間：平成28年度～平成32年度）を策定し、持続可能な最良の地域医療のあり方を探るとともに、これからの病院の方向性を定めています。

急性期医療のみならず、加西市全体の医療ニーズに対応する回復期医療をミックスさせ、かかりつけ医と連携し、在宅医療まで切れ目のない地域医療体制を構築しようとしています。安心して暮らしやすい加西市の実現に向けた地域包括ケアシステムの医療分野での貢献が期待されます。



市議会年表

昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
6月3日 市役所機構改革条例等13件を可決。	5月23日 加西病院敷地造成工事岩盤露出問題で議員協議会。	5月16日 加西ハイイツ造成工事、病院敷地造成工事岩盤露出問題で議員協議会。												

(出典：加西市議会20年史)